

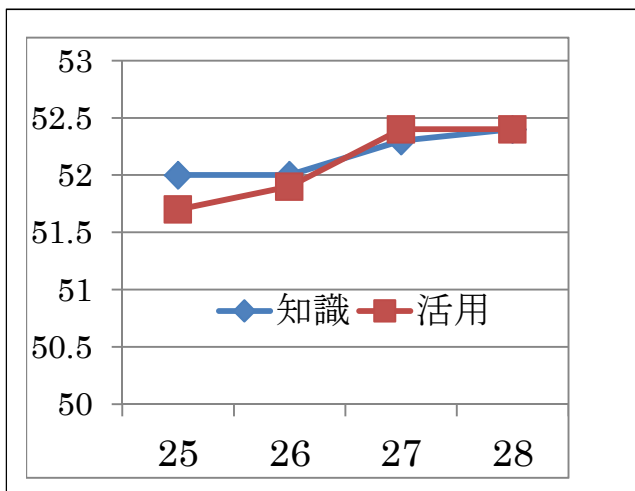
平成28年度 大分県学力定着状況調査結果（小学校：算数）

1 結果のポイント

○全問題数：38問（知識31問、活用7問）

グラフの値は市町村立校のもの

	H28	H27
知識	52.4	52.3
活用	52.4	52.4



- ・38問中31問が目標値を上回っている。

（H27は38問中34問）

活用については7問中5問が目標値を上回っている。

- ・課題が見られた問題は、切り上げて見積もることの意味を理解し、そのわけを説明する問題、地図から情報を読み取り面積を求める問題等であった。

○領域別、観点別結果

（「量と測定」領域で目標値を下回ったが、その他の領域、観点はすべての項目で目標値を上回り、偏差値も50を上回っている。）

領域	正答率		偏差値
	大分県	目標値	
数と計算	75.9	72.5	52.1
量と測定	62.9	64.2	52.1
図形	69.6	61.3	52.8
数量関係	68.3	58.3	52.2

観点	正答率		偏差値
	大分県	目標値	
数学的な考え方	64.7	59.4	52.2
技能	75.2	71.3	52.4
知識・理解	69.7	65.0	53.0

○総合質問紙調査 i-check（肯定的な回答の割合）

	H27	H28	全国値
算数の勉強はどれくらい好きですか	65.3	62.5	H27、H28ともに66.3
算数の授業はどれくらい分かっていますか	82.6	81.6	H27、H28ともに81.4

2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

(1) 数と計算

① (3) $739 \div 26$

◇ 3けた \div 2けた=2けた（余りあり）の計算ができる。

（正答率68.6%・目標値70.0%・短答）【知識】

- ◇ 「28 あまり 11」と答えるところを、おおよその数で 28 や 28.4 と解答し、余りを記述していない誤答や計算の仕方の誤りによる誤答が推測できる。「(3 位数) ÷ (2 位数)」の計算は、筆算の仕方を確実に身に付けさせるとともに、児童が計算の確かめをしたり、商の見当をつけたりできるようになることが大切である。

$$(7) 3\frac{3}{5} + 1\frac{4}{5}$$

- ◇ 帯分数+帯分数=帯分数（繰り上がりあり）の同分母分数の計算ができる。

(正答率 73.3%・目標値 75.0%・短答)【知識】

- ◇ 18.5%の児童が整数+仮分数($4\frac{7}{5}$)の形で解答している。H27 の県調査でも目標を下回っていたが、H27 より正答率は 1.5%上回っている。誤答の整数+仮分数の形で解答している児童も 2.2%減っている。

解答は、仮分数、帯分数のいずれかの形であらわすことになる。帯分数で表す場合には、分数部分が真分数であるかどうかを確認することをおさえる。また、帯分数で表すことによさにもふれて理解を深めさせることも大切である。

21 (2) 切り上げて見積もることで、全員に配布することができることを説明する問題

町名	C 町	D 町	E 町	F 町
人の数	1832 人	2498 人	1540 人	1180 人

- ◇ 切り上げて見積もることの意味を理解し、枚数がたりるわけを説明できる。

(正答率 20.6%・目標値 30.0%・記述)【活用】

「正しい」と答えた児童は 47.7%であったが、そのわけが不十分なものが 27.1%いる。

正答は「切り上げて見積もると、じっさいの人数（まい数）よりも多くなるから」と答える必要がある。「切り捨て」や「四捨五入」を根拠に選んだり、「おおよその数で計算しているから」等のように根拠となる内容を記述できていないことが推測される。

日常生活での経験や興味・関心と関連付けて、見積もりの目的を明らかにした上で、見積もり方を選択して概算し、得られた結果と実際の数を数直線に表し、大小関係を視覚的に比較して考察する活動を設けることが大切である。

(2) 量と測定

8 単位量当たりの大きさを求める問題 (式と答え)

- ◇ 文章問題を解くために立式した整数÷整数=小数第一位 の式から、正しい答えを求めることができる。 (正答率 64.2%・目標値 65.0%・短答) 【知識】
- ◇ 立式は目標値 (正答率 73.1%・目標値 65.0%) を上回っているが、答えに課題がある。
単位量当たりの大きさを求める除法の式をたてることはできているが、答えに課題がある。
除数が被除数より大きい場合、小数や分数で答えることを適宜練習の機会を設けることが大切である。

12 身近にあるものの、およその面積を求める問題

- ◇ 身近にあるものの面積を推察することができる。 (正答率 26.4%・目標値 35.0%・選択) 【知識】
- ◇ 解答類型と反応率は次のとおりである。

およそ 4500 c m ²	およそ 450 c m ²	およそ 450m ²	およそ 45 c m ²
26.4%	47.4%	10.5%	13.7%

「およそ 450 c m²」を選択した児童は対象物のたてと横の長さを約 45 c m と 10 c m と見当を誤ったか、対象物を実際よりも小さいものと捉えていることが推測される。基本的な量である面積の意味について理解し、量の大きさについての感覚を身に付けることが大切である。

「1 mはこのくらいの長さです」など、基本的な単位についておよその大きさを示せるようになることや、1 c m²の大きさの正方形を作図する活動、およそ 1 m²の大きさのものを身の回りから見つける活動などを取り入れることが必要である。

(3) 図形

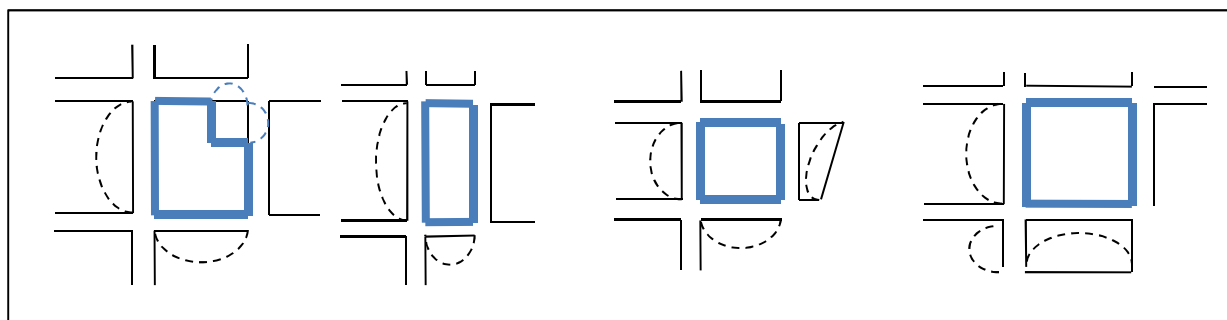
14 対角線の長さがいつも等しい四角形を求める問題

- ◇ 四角形の対角線の性質を理解している。 (正答率 57.3%・目標値 60.0%・選択) 【知識】
- ◇ 解答類型と反応率は次のとおりである。

台形	平行四辺形	ひし形	長方形
1.4%	13.0%	26.9%	57.3%

図形を弁別するための根拠となる定義や性質を明確にして、図形を調べたり説明したりする活動を充実させることが大切である。例えば、コンパスを用いて図形の対角線の長さを調べて比較する活動を取り入れるなど、児童がそれぞれの対角線の長さを実感を伴って理解することが必要である。

21 面積のいちばん大きい土地を求める問題



◇ 地図から情報を読み取り、面積を求めることができる。

(正答率 25.3%・目標値 40.0%・短答)【活用】

与えられた条件を基に地図を観察して図形を見だし、面積を比較して求める必要がある。正答率が低いのは、図の大きさで判断したことや、正しい面積を求めることができていないことが推測できる。一般的に、授業で用いられる問題には解決に必要な情報のみが与えられていて、それ以外の情報は含まれていないことが多い。過剰な情報を含んだ場面や事柄を提示して、それらの中から問題の解決のために必要な情報を選択する活動を取り入れることが大切である。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

(1) 問題解決的な学習（算数的活動）の充実

○知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視し、既習の知識や技能、考え方を活用し、問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるような場面を設定する。

例えば、

- ・図や表を観察して、問題解決に必要な情報を選択したり、読み取ったりして処理する。
- ・日常生活の事象の解決に、概数や概算を活用して、目的に応じて合理的かつ能率的に判断する。

等の授業を「全国学力・学習状況調査問題」「授業アイデア例」を活用し実施する。

H27B[4]（キャップ集め）、H24A[5]（はがきの面積）、H19B[1]（花壇）

○言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする活動を重視する。

○算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気付く場面を設定する。

(2) ねらいを達成するための言語活動の充実

○「授業のねらい」「言語活動」「評価」の内容を一致させ、児童の考えたことや表現したことが「授業のねらい」とつながるようにする。

○数量や図形、数量関係を考察して見いだした事実を確認したり説明したりする、問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明する、論理的に考えを進めてそれを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりする等の場面を設定する。

(3) **見通しを立てたり、振り返ったりする活動の工夫**

- 結果や解決の方法等を予想させ、課題を共有させる（やるべきことの見通しを立てる）。
- 学習したことをまとめたり整理したりする場面を設定する。
- 適応問題や評価問題に取り組ませ理解や定着状況を確認する場面を設定する。

(4) **数学的な用語を使った表現力の育成**

- 数学的な用語を教えるだけでなく、その用語を使い、説明させる場面を設定する。

(5) その他

- 指導教諭や学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員等の優れた実践を広げる。
- 家庭での学習習慣を身に付ける適切な指導を行う。

国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」資料を活用して下さい。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>